

平坦であることの誇り

text by Shinji Ishii
文いししんじ

どこまでもどこまでも平坦な土地。国内の最高点は標高321メートルの丘。ここまで平らだから、自転車レースが国技となり、冬はそこから毎日アイススケートの大会がひらかれている。裏返せば、国土の四分の一は、干拓をやめた途端海の下へ水没してしまう。

以前にも触れたように、国土に関するこの目だった特徴は、まちがいなくオランダという国の先進性に影響している。売春を国家が正統な職業とみなし、同性婚をいちはやく認め、医療現場での尊厳死は、キリスト教が根づいているにもかかわらず、公的に認されている。

市中の中心街に点在する「コーヒーショップ」なる店では、ソフトドラッグ、とみなされる大麻の葉、ハシツシの樹脂がふつうに売られている。ハードドラッグ、つまりヘロイン、コカイン、覚醒剤などの

が連携しあい、あたらしいサービスのネットを作ったりと、「個」の自主性に育まれたコロナ対策は、周辺諸国から、「理想的」と賞賛されたものだった。

ところが八月を迎え、一週間の新規感染者数が四千人をこえ、四月下旬以降では最多を記録。当初は自由だったマスクについても、現在は着用が義務づけられている。市民が接触人数を当初は三人と計算して対策を練っていたが、あらためて調査してみると二桁どころか三十、四十人にのぼることがわかった。

「(ルールを)しっかりと守らないひとが増えている」と、ルッテ首相は公式のインタビューで嘆いてみせた。

個が全体を広くみわたし、みずからの立ち位置を定め、行動する。それがオランダにおける自主性のありかただ。「社会的距離」というアイデアにおいて、世界でもたぐいまれなセンスをそなえているはずだった(京都人とならぶくらい)。

コロナ禍がオランダ国内限定の問題なら、きつとそのセンスは遺憾なく発揮され、いまごろ禍は収束していたと思う。世界的なパンデミックのなかで、オランダの「個」

中毒者には、保健所の係員が広場で「マザドン」なる代替薬と注射器を配る。受けとるには名前と住所を登録しなければならぬ。

全体が「個」を信用し、「個」は全体をみわたり、効率よく使う。オランダの伝統は、オレンジ色に身をつつんだ、サッカーの代表チームにも現れている。映画や音楽、とくにジャズに関してはいまや世界の中心だろう。他のヨーロッパ諸国にくらべ、国土、国境に対する執着心の薄さは、自然、多くの移民を招き、文化的な混交をうみ、波打ちうねりながら先へ進んでいく、といった、未来的な国のかたちを実現してきた。

たとえば、僕が頻繁におとずれていた1990年代にしてすでに、コンピューター上に「第二アムステルダム市」が存在していた。そこでは現実世界ではいっしょにたのび、僕が頻繁におとずれていた1990年代にしてすでに、コンピューター上に「第二アムステルダム市」が存在していた。そこでは現実世界ではいっしょにたのび、

騒動のなかで、とある知り合いの家族がオランダでみずからの死を選び、この世からひとり旅立った。そのひとを思うとき、僕の目にはやはり、どこまでも平坦なオランダの土地が浮かぶ。その平坦さの上で、男と女、子どもと大人、国民と外国人、健康と病、生と死、あらゆる区別がひとしなみに、冷静に、大切にとりあつかわれる。

オランダ人がオランダの「個」をとりもどすとき、その平坦な国にきつと、オランダならではのコロナ対策が実現し、ウイル

になれなかった相手と結婚し、努力を経て夢みていた職業に就けた。外国人でも登録すればその日から職安にでかけ仕事をさがすことができた。当時から僕は、将来のある時点でたぶん、自分はアムステルダムに引越すだろうな、と想像していた。

そんなオランダが、コロナ禍に揺れた。イタリア、スペインでウイルスが猛威をふるいはじめた春、オランダ政府は「インテリジェント・ロックダウン」なる方針をうちだした。家族以外で集まってもいいのは三人まで、1.5メートルの距離をとること、など具体的な数字でルールを示した上で、あとは個人の自主性に任せる、とした、あいかわらずオランダらしい対応だった。

使われなくなったパソコンを国が回収し家族に配り、一週間で全国レベルのリモート教育を実現させたり、離れた飲食店同士は禍は徐々に静められるだろう。賛否が分かれ、うちでは無理だ、と他国から眉をひそめられるかもしれない。けれども可能性は、まちがいなくひらかれる。オランダ人はもはや「個」のレベルを引き下げる必要はない。僕をふくめ、全世界の半端な「個」が、それぞれの登り道をたどってその高みをめざし、どこまでも平坦な誇りの土地へ、いつの日かたどりつけばよいのである。



オランダ王国

面積: 41,864km² (九州とほぼ同じ)
人口: 約1,738.4万人 (2019年9月オランダ中央統計局)
人口密度: 約415人/km²
言語: オランダ語
宗教: キリスト教(カトリック24.4%, プロテスタント15.8%), イスラム教(4.9%), ヒンズー教(0.6%), 仏教(0.5%), 無宗教・その他(53.8%) (2015年 オランダ中央統計局)



Profile
1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説『ぶらんこ乗り』『麦ふみクーツェ』『ポーの話』『みずうみ』『四とそれ以上の国』など、エッセイ『人生を教え!』(町田康共著)『熊にみえて熊じゃない』『遠い足の話』、絵本に『赤ずきん』(ほしよりこ絵)など多数。